

# 複式学級の音楽指導における教師の留意点について

## —教師のための研修資料の作成に向けて—

山口 亮 介

令和2年度学校基本調査によると、全国の複式学級数は4,443である。複式学級の音楽指導についての先行研究は少なく、また、全国共通となる指針も文部省が1995年に発行した『複式学級指導資料音楽編』が最後である。本研究では、複式学級で音楽指導をする教師のための研修資料を作成・共有するために、現在インターネットから入手できる複式学級の学習指導に関する資料に着目し、記載されている内容を整理すると共に、実際に指導をしている教師へのインタビューを行った。その結果、ほとんどの事例が、同単元同教材での指導について触れられていることが分かったが、鍵盤ハーモニカやリコーダーなど学年による技能差が生じる場面で特に教師は困難さを感じており、本研究では課題解消の留意点について明らかにした。

キーワード：複式学級 同単元指導 学年別指導 音楽教育

### 1 問題の所在と研究の目的

文部科学省による令和2年度学校基本調査<sup>(1)</sup>では、複数学年と1学級とする複式学級は、4,443学級（2個学年4,436 3個学年2 4個学年3 6個学年2）ある。平成23年学校基本調査<sup>(2)</sup>では5,646学級であったことから、近年、全国の小学校において複式学級数は減少してきているが、依然として教師にとっては、複式学級での授業についての課題を抱えていることは変わらない問題である。

山口（2020）<sup>(3)</sup>が、「1995年を最後に文部省及び全へき連は、現在に至るまで複式学級の音楽指導に関する書籍を発行していない。」と述べるように、現在、複式学級の音楽指導について、全国的に統一された指針を示すような書籍や情報は公開されていない。一方、複式学級を多く有する自治体の教育委員会や教育センター、北海道教育大学/北海道立教育研究所、複式学級を有する国立大学附属小学校などの情報はインターネットにおいて確認できる。

複式学級の音楽指導についての研究についての先行研究は、NII 学術情報ナビゲータ CiNii 検索（検索ワード：複式 音楽）で確認できるものとして真田（1994）<sup>(4)</sup>、川口（2001）<sup>(5)</sup>による広島大学附属東雲小学校での授業実践、圓城寺ら（2016）<sup>(6)</sup>、山口（2018）<sup>(7)</sup>（2020）<sup>(8)</sup>、芳賀・大野（2020）<sup>(9)</sup>の研究論文が挙げられるが、山口が教育委員会の資料や国立大学附属小学校の実践に触れているものの、1995年以降の複式音楽の学習指導全体についてまとめられているものはない。

表1 本研究で扱う複式学級指導資料一覧

北海道立教育研究所・北海道教育大学（2001） <sup>(10)</sup>
北海道立教育研究所・北海道教育大学（2003） <sup>(11)</sup>
北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター（2019） <sup>(12)</sup>
北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター（2021） <sup>(13)</sup>
青森県教育委員会（2007） <sup>(14)</sup>
青森県教育委員会（2010） <sup>(15)</sup>
青森県教育委員会（2019） <sup>(16)</sup>
岩手県教育委員会（2003） <sup>(17)</sup>
岩手県教育委員会（2005） <sup>(18)</sup>
岩手県立総合教育センター（2014） <sup>(19)</sup>
岩手県教育委員会（2015） <sup>(20)</sup>
岩手県教育委員会（2017） <sup>(21)</sup>
栃木県教育委員会（2019） <sup>(22)</sup>
奈良教育委員会事務局学校教育課（2015） <sup>(23)</sup>
島根県教育委員会（2020） <sup>(24)</sup>
長崎県教育センター（2007） <sup>(25)</sup>
宮崎県教育委員会（2021） <sup>(26)</sup>
鹿児島県教育委員会（2018） <sup>(27)</sup>

出典：筆者作成

そこで、本研究では複式学級で音楽指導を行う教師のための研修資料を作成に向けて、現在インターネット上で確認できる各自治体などが発行している複式学級の学習指導についての資料18編（表1：以下「各自治体等の資料」と表記する）に着目し、現在の複式学級で音楽指導を行うためのカリキュラムの作成や学習指導において、教師はどのようなことに留意しなければならないかを明らかにすることを研究の目的とする。

## 2 研究の方法

研究を進めるに当たって、まず、18編の調査対象資料の記載内容の傾向について整理する。全国的に統一された指針や情報が公開されていない現在において、各自治体等の資料の共通点や相違点について明らかにすることで、複式学級の音楽指導の方法についての方向性を示したいと考えた。

その際に、小学校音楽科の教科用図書を発行している、教育出版（2019）<sup>(28)</sup>、教育芸術社（2020）<sup>(29)</sup>のホームページで公開されている複式学級用年間指導計画（資料/例）との比較も行う。

次に、複式学級の音楽指導の留意点について、調査対象資料内容及び現在指導を行っている教員からのインタビューをもとに整理をする。インタビューの対象者として、同単元同教材同内容指導を行っているA小学校の教諭（3名）、学年別指導を行っているB小学校教諭（1名）に行った（表2）。

表2 インタビューを行った教師について

A小学校			B小学校
$\alpha$ 教諭	$\beta$ 教諭	$\gamma$ 教諭	$\delta$ 教諭
学級担任			専科
低学年	中学年	高学年	中学年 高学年
同単元同教材同内容指導 (AB年度方式 一部異内容指導)			学年別 指導

出典：筆者作成

インタビューの時間は45分間を設定し、表3に示す質問を行った。A小学校の3名の教員へのインタビューは、当初Google meetを用いて遠隔で行う予定だったが、インタビュー当日回線に不具合があったため、急遽電話での実施となった。B小学校の教員へのインタビューは対面で行った。

表3 インタビューの内容

質問1 日々の音楽指導についての困り感について教えてください。 質問2 日々の音楽指導を行っている教室や座席の配置について教えてください。 質問3 音楽の年間指導計画について教えてください。 質問4 初めて複式学級の音楽を指導する先生によって必要な情報について教えてください。
---

出典：筆者作成

## 3 調査の結果

### (1) 調査対象資料の記載内容の傾向について

資料についての分析を行うに当たって、各自治体等の資料に記された各教科等のカリキュラム作成について調査した（表4）。音楽科学習の記載があった資料を抽出し、記載内容から分かる指導方法を分類したものが表5である。

音楽科のカリキュラム作成については、同単元同教材同内容同程度、または同単元同教材同内容異程度によるカリキュラム作成についての記載が確認できた。また、2例ではあるが、変則複式学級についてのカリキュラム作成の留意点についての記載も確認できた。

なお、教科書を出版している2社については、完全複式学級（低学年、中学年、高学年）の学級編制において、同教材同内容同程度の指導を行うことを前提として作成されていた。また、2学年の教材曲をA年度（下学年中心としたカリキュラム）、B年度（上学年中心としたカリキュラム）に分割し、2学年の教材曲が混合した年間カリキュラムを作成している。更に、低学年の鍵盤ハーモニカ、中学年のリコーダーの学習は、その楽器の導入指導をA年度、B年度ともに下学年の教科書に合わせて指導を行っている点の特徴として挙げられる。

一方、これらの資料から、2例の変則複式学級の留意事項の記載は確認できたが、変則複式学級の年間指導計画の具体例の記載は見られなかった。また、学年別指導の事例は見られなかったことから、各資料からは、複式学級の音楽指導は、学年別指導ではなく、同単元同教材同内容同程度指導、同単元同教材同内容異程度指導のいずれかの形で進められていることが分かる。

また、評価についての記載は、2例のみであるが、同単元同教材同内容異程度の場合の記載があることが特徴として挙げられる。

次に、各自治体等の資料に記された各教科等の学習指導案の記載状況を調査し（表6）、音楽科学習指導案の記載がある資料を抽出し、さらに分類したものが表7である。

表6、表7より学習指導案について、ほぼ同単元同教材の学習であり、同内容同程度指導が1例、同内容異程度指導が1例、異内容異程度の事例が4例（合同学習3例）あった。また、学年別指導の記載は1例あった。

表 4 各教科等のカリキュラム作成についての記載状況  
 (○: 単元 (題材) 指導計画 or 年間指導計画等記載 ◎: 作成の留意点記載)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
国語		○	○	○	◎				◎	◎	○			○	◎			
社会			○		◎				◎	○				○	◎			
算数		○	○		◎					◎			○	○	◎		○	
理科		○	○		◎									○	◎			
生活					◎			◎					○		◎			
音楽					◎			◎		○			○	○	◎			○
図画工作					◎			◎						○	◎			
家庭					◎			◎							◎			
体育			○		◎			◎					○	○	◎			
外国語/外国語活動															◎			
道徳					◎								○		◎			
総合的な学習の時間					◎										◎			
特別活動															◎			

A 北海道立教育研究所・北海道教育大学(2001) B 北海道立教育研究所・北海道教育大学(2003) C 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター(2019)  
 D 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター(2021) E 青森県教育委員会(2007) F 青森県教育委員会(2010) G 青森県教育委員会(2019)  
 H 岩手県教育委員会(2003) I 岩手県教育委員会(2005) J 岩手県立総合教育センター(2014) K 岩手県教育委員会(2015) L 岩手県教育委員会(2017)  
 M 栃木県教育委員会(2019) N 奈良教育委員会事務局学校教育課(2015) O 島根県教育委員会(2020) P 長崎県教育センター(2007)  
 Q 宮崎県教育委員会(2021) R 鹿児島県教育委員会(2018)

出典：筆者作成

表 5 各教科等のカリキュラム作成の記載状況  
 (○: 単元 (題材) 指導計画 or 年間指導計画等記載 ◎: 作成の留意点記載 □: 評価の記載)

	同単元指導				学年別指導		
	異教材	同教材 異内容	同教材 同内容 同程度	同教材 同内容 異程度	異単元	同単元 異内容	
E 青森県教育委員会(2007)				◎			※変則複式 記載あり
H 岩手県教育委員会(2003)					○◎□		※変則複式 記載あり
J 岩手県立総合教育センター(2014)					○		
M 栃木県教育委員会(2019)				○			
O 奈良教育委員会事務局学校教育課(2015)					○□		
P 島根県教育委員会(2020)				◎◎	◎◎		
R 宮崎県教育委員会(2021)				○			
教育芸術社ホームページ(2020)				◎			
教育出版ホームページ(2019)				◎			

出典：筆者作成

これらの資料から分かる課題として、2・3年で1学級になるような変則複式学級は1例のみであった。また、高学年の事例については確認できなかった。学年別指導の事例については、宮崎県教育委員会(2021)<sup>(30)</sup>の資料では年間計画は同内容同程度の2学年のカリキュラムをまとめた完全一本案と呼ばれる形式で書かれているため、通常は同内容同程度の指導を行うことが考えられるが、第3学年のリコーダーの導入指導の学習指導案の場面において学年別指導による授業の記載がされているため、本授業について筆者は学年別指導の学習案に分類した。

3(1)の調査から、多くの自治体や小学校において、複式学級の音楽指導は、同単元同教材指導（同内容同

程度指導、同内容異程度）による指導が推奨されていることが推察される。しかし、一部の小学校では、学年別指導が行われている実態があり、前田(2016)<sup>(31)</sup>、山口(2018)<sup>(32)</sup>、島根県教育委員会(2019)<sup>(33)</sup>において、音楽科での学年別指導の実例について触れられており、芳賀・大野(2020)<sup>(34)</sup>は、「児童の転出入を考慮した際に、未習の内容（特に歌唱共通教材）が生じることを防止する観点で、異内容で行われることを考えれば、学年別指導の方法を検討しておくことが重要であり、そのこと自体を目的にすることも十分に意義があると考えられる。」と述べている。

以上を踏まえ、「同単元同教材指導」「学年別指導」のそれぞれの留意点について述べる。

表6 各教科等の学習指導案（1時間の授業の流れがわかる資料を含む）の事例数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
国語	1	1	1	1		1			1	5	1	2				4	1	2
社会						1				1		1					1	
算数	1	1	5	3	3	2			2	7	4	1	1		3	3	1	3
理科		1	1			2					1			1				1
生活							1	1					1					
音楽	1							2		1			1	1		1	1	
図画工作								1						1				
家庭								1										
体育	1		1	1									1	1			1	
外国語/外国語活動				1														
道徳				1									1					
総合的な学習の時間																		
特別活動																		

A 北海道立教育研究所・北海道教育大学(2001) B 北海道立教育研究所・北海道教育大学(2003) C 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター(2019)  
D 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター(2021) E 青森県教育委員会(2007) F 青森県教育委員会(2010) G 青森県教育委員会(2019)  
H 岩手県教育委員会(2003) I 岩手県教育委員会(2005) J 岩手県立総合教育センター(2014) K 岩手県教育委員会(2015) L 岩手県教育委員会(2017)  
M 栃木県教育委員会(2019) N 奈良教育委員会事務局学校教育課(2015) O 島根県教育委員会(2020) P 長崎県教育センター(2007)  
Q 宮崎県教育委員会(2021) R 鹿児島県教育委員会(2018)

出典：筆者作成

表7 学習指導案の分類

	1 ・ 2 年	2 ・ 3 年	3 ・ 4 年	合 同 学 習
A 北海道立教育研究所・北海道教育大学(2001)				器楽 小1246 異内容異程度
H 岩手県教育委員会(2003)	歌唱/器楽 同内容異程度			器楽/音楽づくり/歌唱 小123 異内容異程度
J 岩手県立総合教育センター(2014)		器楽 異内容異程度		
M 栃木県教育委員会(2019)			歌唱 同内容同程度	
N 奈良教育委員会事務局学校教育課(2015)	鑑賞 同内容異程度			
P 長崎県教育センター(2007)				器楽 小56中3 異内容異程度
Q 宮崎県教育委員会(2021)			器楽 学年別	

出典：筆者作成

## (2) 同単元同教材指導の留意点の整理

3(1)の調査から、複式学級の音楽指導においては、同内容同程度指導、または、同内容異程度による指導に記載されていることから、表7に示した7編の資料から留意点について整理をする。

まず、同内容同程度のみ記載である、栃木県教育委員会(2019)<sup>(35)</sup>、宮崎県教育委員会(2021)<sup>(36)</sup>について述べる。栃木県教育委員会は、第3・4学年の単元「拍の流れにのってリズムを感じ取ろう」の学習案の事例の記載があり、単式学級での学習指導と変わらないものであった。「同単元同内容同程度指導(A・B年度案、二本案)」(p.6)との記載もあることから、音楽科の学習は同内容同程度指導を推奨していると考えられる。宮崎県教育委員会は、年間指導計画の事例を「完全一本案」(p.50)と記載し、5・6学年の2年間の学習内容・教材を一本に統一し、「上記の年間計画で2年間指導を行う」と述べるように、同じ指導内容を2年間くりかえして指導を行うようにしている。学習指導案の記載は一本案との記載があるが、技能差が生じる3・4年生のリコーダー導入指導の場面となっており、学年別(異教材)指導の形式で書かれているため、内容については後述する。

島根県教育委員会(2020)<sup>(37)</sup>は、同内容異程度、同内容同程度2つの方法についての記載があり、同内容異程度の場合は「学習内容を精選して、(中略)学習

する内容の学びもれのないようにします。」「児童ひとり一人の能力、音楽経験の違い等を考慮する。」「学年相応のねらいやその活用について考慮します。」と述べる。一方、同内容同程度の場合は、「内容の系統性、児童の音楽経験等を十分考慮することが大切です。2学年同じ目標を立て指導と評価を一体化させます。ただ、学年差による楽器等の演奏技能、用語や記号の理解度等を考慮し、同題材同内容異程度等の学年別指導との折衷案で年間指導計画を作成することも考えられます。」と述べる。

青森県教育委員会(2007)<sup>(38)</sup>は、「類似内容の教材や指導内容の近い教材を組みあわせ、次年度を見通した年間指導計画を作成する。」「同内容指導の場合、基礎的能力が身に付くように指導内容の精選を図り、隣接学年の共通の指導要素を学びもれのないよう抽出する。また、楽器の演奏技術や記号の理解度等に合わせ学年相応のねらいやその活用について考慮する。」「両学年の児童が進んで参加できるような、魅力ある教材や創造的な音楽活動が可能となる題材を設定する。」「時間毎の目標は、2個学年同じ内容でもよいが、楽器の演奏等技能面の目標は、学年毎の設定をすることが大切である。」「既習済みの教材でも内容やねらいを高めて再度扱うことは構わないが、提示の新鮮さや上学年が下学年に教える活動を取り入れる等の工夫をする必要がある。」と述べる。

岩手県教育委員会（2003）<sup>(39)</sup>は、同内容異程度での事例が記載されており、「2学年共通の題材名を設定します。」「学習指導要領の目標・内容との関連を考え設定します。」「2学年の教材からねらいに沿って同一教材を選択します。」「2学年同じ目標を設定します。ただし、技能面の目標の場合、学年差を考慮し、学年毎に設定することが望ましいです。」「技能面の評価では、技能面の差が大きいことから、学年毎に設定することが望ましいです。」「音楽への関心・意欲・態度」については共通に設定し、「表現の技能」については、それぞれの技能面の差を考え、2つの学年それぞれに判断基準（判断の尺度）を具体的に設定します。」と述べる。

奈良県教育委員会事務局学校教育課（2015）<sup>(40)</sup>の学習指導案は同内容異程度で記載され、「表現（歌唱）と鑑賞の学習活動は異学年でも共通の題材で同じ教材曲を扱う場合が多いが、題材の目標や評価規準に<sup>マ</sup>ついてはそれぞれの学年に応じて設定する必要がある。」と述べる。

次に、同教材同内容指導（AB年度方式）での指導を行っているA小学校3名の教員へのインタビューについて述べる。

質問1「日々の音楽指導についての困り感」について、 $\alpha$ 教諭は「鍵盤ハーモニカ・リコーダー指導などA（下学年）・B（上学年）年度方式での実施のため偶数年・奇数年で差が出る。」「転校する児童がいたため、習っていない曲を指導する際に困った。」「教材や内容によって学年ごとに差をつけて評価を行うこともある。」と述べた。本年度初めて複式学級を指導している $\beta$ 教諭は、「日々の指導で困ることが多い。特に各学年に分かれて指導を行う時に困難が生じる。」「授業では、前半は3年生の教材を使った2学年での同教材での指導、後半は4年生のみ異教材での指導を行うことがあり、その際に、2つの異なる音楽が流れていて指導が進まないことがある。3年生はリコーダーを中心に学習を行っているときに、4年生は異なる学習ができないことがあった。」と述べる。複式学級の指導経験が豊富な $\gamma$ 教諭は、「5・6年は複式学級の学習経験がやりやすいが、1年生～4年生はまだ大変である。高学年でも年度当初の学習では、知識や技能のスタートラインが異なっており、それぞれの学年でのレディネスが異なることが困難である。」と述べた。

質問2「教室や座席の配置」については、 $\alpha$ 教諭は、「普段は教室で授業を行っているが合奏などは音楽室

で授業を行っている。3名の2年生が2名の1年生を挟んで座席を配置している。」と述べた。 $\beta$ 教諭は、「一斉指導の時には3年生3名が前列、4年生4名が後列の2列で授業を行っている。学年を分かれて指導をするときは、4年生が教室の前、3年生が教室の後ろを使って授業をしている。」と述べた。 $\gamma$ 教諭は、「学級を2班に分け、2名の5年生がそれぞれ混ざるように、3名、4名の班を編成し、1班は1列目、2班は2列目にして授業を行っている。」と述べた。

質問3「音楽の年間指導計画」については、代表して $\alpha$ 教諭が「基本は同教材同内容指導のAB年度方式の授業を行っている。以前作られているカリキュラムを修正しながら年間カリキュラムを作成している。」と述べた。筆者が「教科書を発行している会社のホームページに年間カリキュラムの記載があることを知っていますか。」と尋ねたところ、「教科書会社が作成している年間カリキュラムがあることを知らなかった。」と述べた。

質問4「複式学級の音楽を指導する先生によって必要な情報」については、 $\alpha$ 教諭は、「各学年で振り分けしないで、学年の程度にあった合奏が欲しい。一緒の曲で2学年の差がついたものが欲しい。」「CDはリコーダーのメロディーがのっているものがあればと思う。一人一台のPCから音が聞こえてほしい。」と述べた。 $\beta$ 教諭は、「複式学級にあったカリキュラムが欲しい。学年を分けて指導する際にどうするのかについての情報が欲しい。」と述べた。 $\gamma$ 教諭は、「年度当初の児童のレディネスが異なり、学習の足並みが揃わないために苦勞をする。」と述べた。

### (3) 学年別指導の留意点の整理

学年別指導について資料からは、年間カリキュラム作成についての記載は確認できないが、同単元同教材指導について記載された宮崎県教育委員会（2021）<sup>(41)</sup>の学習指導案に示された、3・4年生学級でのリコーダー導入指導での学年別指導の事例について述べる。

同単元同教材指導を行っている学校において、1年生の鍵盤ハーモニカ、3年生のリコーダーの導入指導については、共に上学年との技能差が生じるために、教師は導入指導を共に行うか、一部学年別指導を行うかが求められ、本事例は後者に該当すると考えられる。

記載された学習指導案について、筆者が整理（一部抜粋、要約）したものが表8である。

表8 リコーダー導入指導の事例

	第3学年	第4学年
目標	リコーダーの基本的な演奏の仕方に慣れる。	パートの役割を意識し、互いの音を聴き合いながら演奏する。
教材	記載なし	もののけ姫 ハローサミング
導入	本時の学習内容を確認、学習の見通しをもつ。(学習計画表 ゲーム)	
	リコーダーの演奏の仕方を学ぼう。	パートに分かれてリコーダーを上手に演奏しよう。
展開	リコーダーについて知り演奏を聴く。	
	リコーダーの演奏の仕方について学習する。(直接)	「もののけ姫」の基本となるパート練習をする。(間接)
	小グループごとに分かれて演奏をする。(間接)	サミングの仕方について学習する。 ハローサミングを演奏する。 もののけ姫をパートごとに分かれて練習する。(直接)
	グループごとに演奏する。	
終末	本時の振り返りをする。	

出典：宮崎県教育委員会『複式学級を有する学校のために－複式学級指導資料－』宮崎県教育委員会, 2021年, p.51 (ただし筆者により一部抜粋、要約した。)

目標、教材曲、学習のめあて、学習の展開について、学年で異なっている。評価についても、3年生は「正しい指使いで演奏することができたか。」であることに對し、4年生は「正しいサミングで演奏することができたか。」「パートごとの演奏に意欲的に取り組もうとしていたか。」との記載があり、「第3年生はリコーダーの基礎的な演奏の仕方を、第4学年はリコーダーのパートごとに分かれて演奏をするなど発展的な演奏の仕方を学習する。」と述べている。

2学年共通の内容として、導入部、展開部の発表場面、終末部を同時に、もしくは直接指導の場面を設定していることが特徴として挙げられる。学習内容が異なる学年別指導や、同単元異内容指導において、このような指導方法は有効であると考えられる。

本年度初めて複式学級の指導を受け持ち、現在、学年別指導を行っているB小学校の教諭へのインタビューでは、質問1「日々の音楽指導についての困り感」として、「児童との対話の時間を持つことが困難」「わたりのタイミングが難しい。」「片方の音が鳴っていて困る。」「じっくりつきたい学年、リコーダーの習熟などでつけない。」「導入の時間が長くなることがある。」「自分たちの声と伴奏の音が入り混じっていてなんとなく教えているのかなという感じになってしまう。」と多くの課題を挙げていた。A小学校でのイン

タビューと比較しても、教師の困り感はかなり強く、その内容についても多岐にわたっていることが伺えた。

質問2「教室や座席の配置」については、「音楽室で授業を行っており、前を向く学年(上学年)と後ろを向く学年(下学年)に分けて後ろは移動黒板を使っている。各学年は横一致列で少し円形になっている。」との回答があった。普通教室の学年別授業の形をそのまま使っており、児童同士の互いの顔が見えるように工夫をしていることが挙げられる。

質問3「音楽の年間指導計画」については、「同題材であることが多いが指導は異教材異内容である。」「常時活動は同じものを行っている。」「題材の最後の発表の場でお互いの学年の発表を聴くような場面を設定している。」との回答であった。学年別指導でありながら、授業導入の常時活動は同じものであること、同題材の学習を可能な限り設定していること、発表の場を共有していることなど、授業内で共有に学習する場面を設定していることが挙げられる。

質問4「複式学級の音楽を指導する先生によって必要な情報」については、「学習指導要領や教科書の内容を理解して話すことが必要」「どうぞらしても同時に音が鳴ることがいつか訪れるので別教室があればと思う。」「Google Classroomで伴奏音源を共有して授業で活用している。」「ICTの活用がないと難しい。」「本

来ならばデジタル教科書が使いやすいと考える。現在教師用は活用しているが児童用が導入されることが、教師がつけられない時間が多い複式学級の音楽指導に有効だと考える。」「複式の音楽指導についての情報を得る機会がない。教えてくれる人もいない。」との回答であった。デジタル教科書やタブレットPCの活用が有用であること、複式学級の音楽指導について情報入手の機会がないことについての指摘がなされた。

#### 4 全体考察

各自治体等の資料から、複式学級における音楽科の指導は、同単元同教材指導を基本として進めているといえる。これは、文部省（1975）<sup>(42)</sup>は、「音楽の学習は音を使っての学習である。したがって、一つの音楽教室の中で学習している児童たちに異なる二つの音楽を同時に提示することはできない。それゆえ複式学級の音楽指導においては、同時同題材による学習をたてまえとするのがよい。」と述べ、AB年度式のカリキュラムが記載されていることと共通している。

しかし、A小学校β教諭のインタビューや、宮崎県教育委員会（2021）<sup>(43)</sup>の学習案で示されているように同単元同教材指導を行っている学校においても、児童の学習履歴や学校の実態に応じて、学年別指導は必要になる場合がある。特に、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入指導は、上学年と下学年の技能差が顕著であることから、学年別指導についての検討が必要になる場面である。

その際に、2つの指導方法が考えられる。1つは異教材による学年別指導を行う方法であり、もう一つは同教材による指導を行う方法である。

前者の事例においては、宮崎県教育委員会（2021）<sup>(44)</sup>の記載するように、全ての学習過程をずらすのではなく、導入部～展開部の初めまで教師が直接指導を行い、展開部で一部学年別指導、終末部は同時に直接指導を行う方法である。類似する方法としては、A小学校での常時活動や発表場面において2学年同時に直接指導を行う指導方法、岩手県総合教育センター（2016）<sup>(45)</sup>に記載されている「共通導入・共通終末を設定する指導モデル」を活用した山口（2018）<sup>(46)</sup>、芳賀・大野（2020）<sup>(47)</sup>の実践が挙げられる。

後者の事例においては教科用図書発行2社による年間指導計画に示されている、A年度、B年度ともに、共通の教材を扱った指導を行う方法が考えられる。そ

の際の留意事項として、上学年においては昨年度と同様の学習内容になるために、同内容異程度の学習を行うことが有効であると筆者は考える。また、上学年の児童が下学年の児童へ教える活動を設定することも有効であると考えられる。この事例については、広島大学附属東雲小学校（2010）<sup>(48)</sup>の実践においても同様の取組が示されている。

このような情報を、複式学級で音楽指導を行う教員が得ることが、教師や児童双方にとって有益であり、実態に合わせて教師がより良い方法を選択できることが望ましいと考える。

#### 5 本研究のまとめと課題

本研究では、各自治体等の資料から1995年以降の複式学級の音楽指導がどのように行われてきたかについて整理することができたと考える。本研究では、指導方法の異なる2校、4名の教師にインタビューを行ったが、全員が各自治体の資料や教科用図書発行社の年間カリキュラムの存在について知らなかったと回答した。筆者がこれまで調査を行った学校や指導助言や講演で訪れる複式学級を有する学校においても同様な回答が多いことから、複式学級の音楽指導についての情報を共有することが課題であり、複式学級で音楽指導を行う教師のための研修資料を共有できるプラットフォームの作成が必要であると考えられる。

また、教師へのインタビューを通して、コロナ禍によるGIGAスクール構想において、デジタル教科書等の活用を含めたICT機器についての検討が必要となる。間接指導の際に教師がつけられない時間が生じる複式学級においてどのように活用するのか、また、どのような媒体やアプリケーション、活用方法が複式学級の音楽指導において有効な手立てとなるのかについて考えていきたい。

今回のインタビューでは、変則複式学級での事例についての調査はできなかった。資料についても記載が少ない事例であるが、今後情報収集や共有が必要な内容であると考えられる。

本稿は、科学研究費補助金（基盤研究（B）（一般）、課題番号18H01003）による研究成果の一部である。



## 【註】

- (1) 文部科学省 (2020) 『学校基本調査』
- (2) 文部科学省 (2011) 『学校基本調査』
- (3) 山口亮介 (2020) 「複式学級における音楽指導の課題と展望—指導の変遷と教師への聞き取り調査から—」『盛岡大学紀要 (37)』、pp.63-73.
- (4) 真田美智子 (1994) 「豊かな感性を育む音楽づくりの指導：複式中学年 (3、4年生) 音楽物語をつくろう「つるのおん返し」の実践を通して」『研究紀要 (平成5年度)』、広島大学附属東雲小学校、pp.99-104.
- (5) 川口万里 (2001) 「人やものとのかかわりの中でつくる総合的な音楽活動：複式高学年「マイテープをつくろう」の実践を通して〈Ⅲ各教科・領域の実践〉〈音楽科〉」『研究紀要 (平成12年度)』、広島大学附属東雲小学校、pp.95-99.
- (6) 圓城寺佐知子・高橋望・竹林地毅・権藤敦子・寺内大輔・森保尚美・藤中俊樹 (2016) 「多様性と協働を保障する授業の開発：インクルーシブな視点による音楽活動を中心に」『学部・附属学校共同研究紀要 (45)』、広島大学学部・附属学校共同研究機構、pp.135-145.
- (7) 山口亮介 (2018) 「複式学級における音楽科指導の課題解消への実践研究：反転学習と類似教材での共通導入・共通終末の設定について」『長崎大学教育学部教育実践研究紀要 (17)』長崎大学教育学部、pp.101-110.
- (8) 山口亮介 (2020)、前掲論文.
- (9) 芳賀均・大野紗依 (2020) 「複式学級における学年別指導による音楽の授業の検討：へき地校における異題材指導の実践を通して」『へき地教育研究 (75)』北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター、pp.47-54.
- (10) 北海道立教育研究所・北海道教育大学 (2001) 『複式学級における学習指導の在り方—はじめて複式学級を担任する先生へ—』  
[http://www.dk.hokkaido-c.ed.jp/kenkyuu/project/h12\\_h20project/fukushiki\\_13.pdf](http://www.dk.hokkaido-c.ed.jp/kenkyuu/project/h12_h20project/fukushiki_13.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (11) 北海道立教育研究所・北海道教育大学 (2003) 『複式学級における学習指導の在り方』  
[http://www.dk.hokkaido-c.ed.jp/kenkyuu/project/h12\\_h20project/fukushikigakusyushidou\\_14.pdf](http://www.dk.hokkaido-c.ed.jp/kenkyuu/project/h12_h20project/fukushikigakusyushidou_14.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (12) 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター (2019) 『へき地・複式学級における学習指導の手引』  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20191127110915.pdf>  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20191127111004.pdf>  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20191127111043.pdf>  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20191127111124.pdf>  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20191127111153.pdf>  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (13) 北海道教育大学・へき地小規模校教育研究センター (2021) 『へき地・複式・小規模教育の手引—学習指導の新たな展開—』  
<https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005864/20210319164516.pdf>  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (14) 青森県教育委員会 (2007) 『へき地・複式教育ハンドブック (一般編)』  
[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/syohuhukusiki\\_hekiti.pdf](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/syohuhukusiki_hekiti.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (15) 青森県教育委員会 (2010) 『へき地・複式教育ハンドブック (授業実践編)』  
[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/hekichi\\_fukushiki\\_35.pdf](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/hekichi_fukushiki_35.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (16) 青森県教育委員会 (2019) 『へき地・複式教育ハンドブック (一般編)』  
[https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/H30\\_hekifukuhandbook39.pdf](https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/files/H30_hekifukuhandbook39.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (17) 岩手県教育委員会 (2003) 『複式指導資料集 24集 岩手の小規模・複式ハンドブック (生活・音楽・図工・家庭・体育)』  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/006/371/h15\\_hand.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/371/h15_hand.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (18) 岩手県教育委員会 (2005) 『岩手の小規模・複式指導ハンドブック—初めて複式学級を担任する先生へ—』  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/006/371/h16\\_handbook.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/371/h16_handbook.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (19) 岩手県立総合教育センター (2014) 『複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド』  
[http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/170cd/h26\\_1405\\_2.pdf](http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/170cd/h26_1405_2.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (20) 岩手県教育委員会 (2015) 『複式指導資料集 32集 岩手の小規模・複式ハンドブック (6つの実践 事例と10のQ&A)』  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/006/371/hukusiki27.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/371/hukusiki27.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (21) 岩手県教育委員会 (2017) 『複式指導資料集 34集 岩手の小規模・複式ハンドブック (各教科等の指導を通して資質・能力を育む5つの実践事例と10のQ&A)』  
[https://www.pref.iwate.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/006/371/h29hukusiki0326.pdf](https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/371/h29hukusiki0326.pdf)  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (22) 栃木県教育委員会 (2019) 『複式学級の手引』  
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/m03/r3hekichifukusikikyoiuku/documents/h31fukusikigakkyuunotebiki.pdf>  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)
- (23) 奈良教育委員会事務局学校教育課 (2015) 『複式学級における学習指導 改訂版Ⅱ』  
<http://www.pref.nara.jp/secure/39251/hukusikisidou1.pdf>  
(インターネット 2021.8.23 アクセス)

- (24) 島根県教育委員会（2020）『複式学級指導の手引き』  
<http://eio-shimane.jp/files/original/202006011646285814ba58956.pdf>  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (25) 長崎県教育センター（2007）『子どもの学びを支える複式授業』  
[https://www.edu-c.news.ed.jp/web\\_contents/cyosaken/h18/chosa/fukusiki/handbook/handbook.pdf](https://www.edu-c.news.ed.jp/web_contents/cyosaken/h18/chosa/fukusiki/handbook/handbook.pdf)  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (26) 宮崎県教育委員会（2021）『複式学級を有する学校のために—複式学級指導資料—』  
[http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/seisakuka/fukushiki-shidou-shiryou/r03fukushiki\\_kaitei.pdf](http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/seisakuka/fukushiki-shidou-shiryou/r03fukushiki_kaitei.pdf)  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (27) 鹿児島県教育委員会（2018）『南北 600 キロの教育—へき地・複式教育の手引—』  
[http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/hekichi/tebiki/r2/documents/86887\\_20210311160821-1.pdf](http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/hekichi/tebiki/r2/documents/86887_20210311160821-1.pdf)  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (28) 教育出版（2019）『複式学級年間指導計画資料』  
[https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/onga.ku/pdf/r2ongaku\\_nenkeifukushiki\\_1910.pdf](https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/onga.ku/pdf/r2ongaku_nenkeifukushiki_1910.pdf)  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (29) 教育芸術社（2020）『複式学級用年間指導計画例』  
[https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki\\_teigakunen.pdf](https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki_teigakunen.pdf)（低学年）  
[https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki\\_chuugakunen.pdf](https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki_chuugakunen.pdf)（中学年）  
[https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki\\_kougakunen.pdf](https://www.kyogei.co.jp/2020shou/document/fukushiki_kougakunen.pdf)（高学年）  
（インターネット 2021.8.23 アクセス）
- (30) 宮崎県教育委員会（2021）、前掲資料.
- (31) 前田晶子（2016）「小規模化する小学校の課題と展望：鹿児島県における複式・少人数学級の調査報告」『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要（25）』、pp.311-316.
- (32) 山口（2018）、前掲論文.
- (33) 島根県教育委員会（2019）、前掲資料.
- (34) 芳賀・大野（2020）、前掲論文.
- (35) 栃木県教育委員会（2019）、前掲資料.
- (36) 宮崎県教育委員会（2021）、前掲資料.
- (37) 島根県教育委員会（2020）、前掲資料.
- (38) 青森県教育委員会（2007）、前掲資料.
- (39) 岩手県教育委員会（2003）、前掲資料.
- (40) 奈良県教育委員会事務局学校教育課（2015）、前掲資料.
- (41) 宮崎県教育委員会（2021）、前掲資料.
- (42) 文部省（1975）『複式学級音楽学習指導計画例』、教育出版、p.3.
- (43) 宮崎県教育委員会（2021）、前掲資料.
- (44) 宮崎県教育委員会（2021）、前掲資料.
- (45) 岩手県総合教育センター（2016）、前掲資料.
- (46) 山口（2018）、前掲論文.
- (47) 芳賀・大野（2020）、前掲論文.
- (48) 広島大学附属東雲小学校（2010）複式教育ハンドブック—異学年が同時に学び合うよさを生かした学習指導—、東洋館出版、p.9、p.93.